

日本クリスチャン・アシラム連盟



# 日本アシラム

'93 1.1 83

開心・静聴・充滿・献身・奉仕



## 強いられた恩寵

大石 嗣郎

芝居には裏方が表舞台に出るほど滑稽なことはないとされていますが、私の思いは正にそれです。

さて「日本アシラム」季刊紙（二号より四号までは「祈禱生活」）が今日まで続刊出来たのは多くの方々の協力があったことを感謝するのみです。

私がアシラムに関わることになったのは何時であったか定かではありませんが、今になって顧みると「強いられた恩寵」以外に考えられません。生前のS・ジョーンズ博士と直接に交わらせて頂き、霊的感化を受けた一人です。博士は霊的感化力は勿論のこと凡ゆる知識に富んだ世に稀なる伝道者でした。そして日本伝道を始め以来、没する寸前まで日本と日本人の伝道のため過ぎられた。博士の残されたアシラム運動は日本国内ばかりではなく、世界各地において私たちに多くのアシラム禱友を残して呉れました。

今から十四年前（一九七八年）日本に

において開かれた第三回国際アシラムの協力者の一人として無事に終った感激は今でも忘れることは出来ません。

一九九四年には第九回目が北欧スエーデンで開かれる予定です。それにはプロテストヤント・カトリック・オーソドックスの全部が参加されることは長年に亘って博士の大きな夢でした。それが現実となりつつあることは驚異的なことです。

私は一九八〇年インドのサツタル、一九八二年フィンランドのヤルペンバー、一九八六年アメリカのセイント・シモン（ジョージア州）、一九八八年韓国のソウル、一九九〇年カナダのハリファクスと参加させて頂きました。更に国内において連盟の二十五周年、三十周年、三十五周年そして四十周年が一九九五年に計画されております。その折々の海外連絡事務を一手に引受けてJ・マシューズ師、D・P・タイタス師の両師を通して多くのことを学ばせて

頂きました。それら凡ての奉仕の根源はS・ジョーンズ博士の捨身的献身に対する私の恩返しに他なりません。

S・ジョーンズ博士の多くのエピソードの中で忘れることの出来ないのは、日本を離れる最後の日の夕方、二人だけの会話において話された秘話です。それは昭和天皇に初対面において、キリスト教信仰を進言された時のことです。その時の陛下のお答えは「今は毎日賢所における護国豊穰と国家安寧を祈願する務めがある」ときっぱり拒否されたことです。

今後は日本伝道のためもっと勇気をもって愛する同胞に迫って行かない限り日本伝道の厚い壁を突破出来ないことを博士の勇氣ある行動で学ばされた。それが私の伝道の心備えになったことを亡き博士に感謝することを告白せずにおられません。

（日本クリスチャン・アシラム副理事長／日本基督教団碑文谷教会牧師）



スタンレー・ジョーンズ  
コーナー

ビデオ「神の漁り人、  
スタンレー・ジョーンズ」

へこのビデオ「サト・タルのアシユラム」の語りの部分を二、三回に分けて掲載します。>

インドに遣わされた宣教師、世界的に著名な伝道者、三十冊もの素晴らしい書物の著者であるスタンレー・ジョーンズは、このヒマラヤ山麓とサト・タルの地を長年に亘って毎年訪れ、インド北部の美しい景色と快適な気候を楽しんできました。

しかしこの漁り人の休暇は一週間で終了です。大勢の人がインドの各地や海外から、スタンレー・ジョーンズ博士、と言うより、単にスタンレー兄弟と呼ばれて親しまれているこの人と、クリスチャン・アシユラムの恵みと交わりを共にするために、やって来るからです。

クリスチャン・アシユラムがどういうものか、又サト・タルという名がど

ういう意味かは、スタンレー兄弟ご自身に語っていただきます。

スタンレー「皆さん、このサト・タルのクリスチャン・アシユラムによくおいで下さいました。」

「サト・タル」というのは「七つの湖」という意味ですが、この地方の伝説から由来しています。昔、この地に一人の聖者が住んでいましたが、水が得られず渴きのために死にかかっていました。そこへ近くの村から七人の人が手に一杯づつの水をこの地まで運んできたところ、この七杯の水が七つの湖になり、それでこの地はサト・タルと呼ばれるようになりました。これは伝説にすぎませんが、わたしたちはこれを現実のものとして努力しています。一杯の命の水を与え、それが七つの湖のような大きな運動になるように期待しています。

わたしはこのクリスチャン・アシユラムを一九三〇年に、このような世界的運動に成長するとは思わずに、始めました。

わたしは伝道者ですが、「伝道者であって、同時にクリスチャンである」とは困難である」と感じていました。他の人に「ああしなさい。こうしなさい」と説教するばかりで、わたしに向って「ああしなさい。こうしなさい」と言ってくれる人がいないからです。そ

こでわたしに規律を与え、完全なクリスチャンになれるよう手助けしてくれる人々が必要だったのです。

ある時、インドの南部で、通訳を使つて伝道集会をしていました。わたしが「伝道者であつてクリスチャンであることは難しい」と言った時、聴衆の中に宣教師がいたので、その人に向い「宣教師であつてクリスチャンであるのは難しいですね」と言い、また教会の監督が同席していたので、その監督に向つて、「監督であつてクリスチャンであるのは難しいですね」と語りかけました。するとわたしの通訳は、「宣教師であつてクリスチャンであるのは難しい、しかし、監督であつてクリスチャンであるのは不可能です」と訳しました。するとその監督は立ち上つて、うやうやしく礼をしました。

わたしはこのクリスチャン・アシユラムを、インド人牧師ユナス・シンハと英人で隠退した婦人宣教師エセル・ターナーとわたしの三人で、つまりインドとイギリスとアメリカの三つの異なった国籍の者が始めたのですが、このような世界的流れになるとは夢想さえしませんでした。

このサト・タルの地は三五〇エーカー(約四〇万坪)の広さで、エメラルドという意味の「パナ湖」はその一部になっています。又政府に属する二つの湖が境界線上に位置しています。

スタンレーのビデオ  
「神の漁り人」を観て

海老沢宣道

国際アシユラムでいつもお目にかかるスエーデンのクロンシオ兄が、映画撮影の技能を献げて、スタンレー・ジョーンズ博士の在世中、実際に創設の地サト・タルでアシユラムを指導している実況をビデオに作製したことは、随分昔に聞いていた。然し九〇年六月にカナダで国際アシユラムが開かれた時に漸やく購入して持ち帰り、映写して見たところ、アシユラムの原型に接することができ、これはぜひとも、全国の同志にも見て貰うべき尊いものを感じて、大石総務に複製の労を取つて貰い、加盟各地区の委員長の下に配給、昨秋すでに数ヶ所で参加者一同に披露、大きな反響を呼んでいる。

博士は既に七三年一月に天に帰られたため、その後は直接師の声を聴き容姿に接する機会を失っていたが、このビデオにより、生前の師に再会したような喜びを禁じ得ない。また八〇年十月、日本から七名が参加した、世界アシユラム五十周年記念大会が彼の地で開催された時に十日間、現地での生活を共にした者として、チャペル、講堂、食堂、宿舍など見る物全て思い出の種である。この大切な宝をぜひ各地区で活用されるよう切望する。

# 各地区アシュラムの報告

## 第二回「名古屋クリスチャン・アシュラム」報告

### アシュラム報告

一九九二年十二月二日、九時半～四時、活けるキリスト一麦教会で開催。リーダーは渚江淳一師、内村サムエル師、松原向師、松田一路師の四名。参加者(リーダー共)三十八名でした。内村サムエル師の良き司会と指導があり、渚江淳一師の開心説教と聖書講義がありました。新しい会堂(昨春秋鞆堂)で行われ、松原向師のご挨拶がありました。昨年より十一名多い参加者があり、恵まれた集いでした。

(水野輝義)

## 第二十六回「関西アシュラム」報告

日時 9月14日(月)～15日(火)  
場所 関西学院千刈キャンプ場  
主題 「神に喜ばれるわたし」

(ローマ12・1)

主助言者 海老沢宣道師

参加者 34名(男18、女16、教職14、信徒20)参加教会数18

千刈キャンプ場に会場を移して今回で三回目になるが、大自然の中で静かに



▲大自然の中、静かに主イエスと交わり、恵みを分かちあった。

に主イエスと交わるには極めて恵まれた環境であるとしみじみ思わしめられた。プログラムは開会の祈りに始まり、開心の時、祈りの細胞、福音の時、連鎖祈禱、朝の祈り、静聴の時と恵みの分かち合い、労作の時と進められ、充滿の時で終った。

今回初めての試みとしてスタンレー・ジョーンズ博士自身によるアシュラムのビデオを土山牧善師の解説で見、続いて海老沢師による福音の時を迎え

たが、この両者の組合せは今迄にない内容の濃い霊的体験の時となった。

今年は従来のアシュラムに較べて人数的には少数であったが、主との交わり、お互いの交わりに於いてはかえって深められる結果となった様に受けとめられている。

海老沢師御夫妻に今年も応援して頂き、有形無形の恵みに一同がふれさせて頂いた事を神様の賜物と感謝している。(古河 治)

## 「関東地区アシュラム」

### 二ニュース

関東地区委員会は十月二十七日に開かれ、次のように常任委員を選出した。向山自助(委員長、新原迪書記)、三井賢太郎(会計)、棚田恵子(同上)、大石嗣郎、渚江淳一、飯島庸江、以上七名の兄弟。

## ◆アシュラムに参加して

### 所沢市・三井賢太郎

今回の「関東アシュラム」は参加者が予定に達しなかったが、それによって、交わりが一層細密になり、「二、三人わが名によりて集まる所には、我もその中に在るなり」マタイ一八・二〇の聖句の深い意味が示され、どのような中にも主が最善をなしたまうことを

教えられ感謝した。

三日間み言葉を通しみ霊のお取扱いを受けた。私は集会のために奉仕する中でも得難い経験をした。私は自分の働きは、祈り、み助けを受けて全うすることが当然であると思っていた。ところが実はそれさえも、本当はなし得ない愚かな自分であることを見出し、深い悔い改めに導かれた。そして主の憐れみを祈り求めた。主は格別な憐れみを施され、み助けを給わって、私の責任を全うさせて下さった。

「なすべきことをなしたるのみ」と言えとあるが、私はそのなすべきことさえ、なせぬ者であることを悟らされた。ただ「神を待ち望み」詩四一・五、「イエスは主である」と告白しつづけて行きたい、と願った。

我らの禁句は信仰歴の長短を言うことである。「先の者は後になる」のみ言葉を与えられて、恵みの山を下った。

## 「八丈島シャロームアシュラム」

十一月二十九日、八丈島シャローム教会に於て開催。参加者 十二名。

助言者 向山自助師

二つの祈りの細胞にしたが、帰られる方があって、二つになり、数は少なくなりましたが、集まった方々は、大いなる恵みを得て帰られた。

(向山自助)

(前ページに続く)

☆地区アシュラム開催報告

▽四国アシュラム

十一月七日〜八日 松山山越教会  
助言者 海老沢宣道師

▽東北アシュラム

十一月二十三日〜二十四日 蔵王山荘  
助言者 大石嗣郎師 向山自助師  
芦名直道師  
参加者 二十一名

連盟役員会報告

日時 一九九二年十一月二十五日(水)  
正午〜十五時 東京・連盟事務局・  
碑文谷教会にて

出席者 海老沢宣道 渚江淳一 大石  
嗣郎 飯島庸江 以上四名  
議事

○連盟会報編集について  
八十二号及び八十四号レイアウトに  
ついて話し合う。

○国際アシュラム特別献金について  
ビデオ製作費の一部援助費として、  
連盟より五〇〇ドル送金することに決  
定、直ちに送金する。

○第九回国際アシュラム期日、会場が  
決まる。

・日時 一九九四年七月六日〜十一日  
・会場 スエーデン国、ヤコピン

・主題 「イエスは主である」

○第十四回「日本クリスチャン・アシュ  
ラム連盟」理事会

・日時 一九九三年六月七日(月)〜  
八日(火)

・会場 山崎製パン箱根山荘

○第二回日本クリスチャン  
アシュラム・セミナー

・日時 一九九三年六月八日(火)〜  
九日(水)

・会場 山崎製パン箱根山荘(内定)  
・テキスト「インド途上のキリスト」

○その他  
さんびか集(アシュラム用)を一五  
〇〇部増刷する。

○以上、協議の後、海老沢宣道、渚江  
淳一、飯島庸江の祈禱をもって閉会し  
た。

個人消息

○横山義孝師(関東アシュラム委員)  
東京新生教会の会堂を東久留米市に  
建築するため、資金六八〇〇万円中、  
八〇〇万円を一般募金される。

◆計報

○伊東愛信兄(元関東アシュラム委員)  
関東アシュラムに会計として永年奉仕  
された伊東愛信兄は、九月二十八日聖  
ルカ病院にて心不全のため永眠された。  
十月三日深谷教会に於て菊池イウ牧師  
の司式により葬式が行われた。

伊東愛信兄の浄福を祈る

渚江淳一

長年関東アシュラムの会計としてご  
奉仕されてきた伊東愛信兄は、一九九  
二年九月二十八日に心不全のため七十  
九才で天に召された。

兄は非常に責任感が強く、アシュラ  
ムの申込者と申込金、維持献金等を一  
手に照合して、誤りなきを期するため  
一所懸命であった。また連盟主催の大  
アシュラムにも熱心にご奉仕されて、  
一同は兄の働きに大そう感謝している。

しかも東山荘での連盟主催の大アシ  
ュラムの時、愛信兄が坂道を息を切ら  
して上って行くのを見て、筆者は喘息  
ですかと尋ねたことがあったが、はつき  
りしたご返事はもらえなかった。無理  
をしてご奉仕されていたと思われる。

その後愛信兄は戦時中長期間中国大  
陸と南方に転戦、たいへんご苦労をさ  
れたと聞いた。あの立派な体格の兄の  
健康も戦時中の無理がわざわいしてい  
るのではないかと忖度しておりました  
が、奥様の病氣看護のため委員をおや  
めになったのは止むを得ぬことでした。  
奥様は華道と琴、お料理に至るまで  
日本的教養の豊かなお方で、愛信兄と  
共に教会奉仕に熱心であり、愛信兄も  
主に祝福されて家庭生活を送られてい

たのですが、その奥様が一九九二年四  
月十九日に天に召され、それから半年  
後、愛信兄も後を追われました。

●献金報告(七十九号以来)

城北アシュラム	二〇,〇〇〇円
飯島庸江	三〇,〇〇〇円
大石嗣郎	一〇,〇〇〇円
河野 修	一〇,〇〇〇円
四国アシュラム	一〇,〇〇〇円
石神 勇	三〇,〇〇〇円
関西アシュラム	七〇,〇〇〇円
九州アシュラム	一〇,〇〇〇円
山本繁夫	一〇,〇〇〇円
関東アシュラム	一〇〇,〇〇〇円
海老沢宣道	一〇,〇〇〇円
飯島庸江	一〇,〇〇〇円
合計	三七〇,〇〇〇円

一九九二年十二月一日現在(大石)

アシュラムの五大原則

- (一) キリストへの明渡し
- (二) 御言への静聴と立証
- (三) 聖霊の啓導と充満
- (四) 教会への奉仕と伝道
- (五) 神の国の体験と献身

東京都目黒区中央町1-21-10  
 日本クリスチャン・アシュラム連盟  
 振替口座東京〇一四五五八番  
 理事長 海老沢宣道  
 編集長 大石川宣道  
 発行人 白川嗣郎  
 定価 一部60円 丁62円